

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら「思考・判断・表現」できる力を育成するために適切な教育課程を編成し、不断の授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒が主体性を持って組織的に学校行事等を企画・運営することを通して、社会のリーダーとしての資質を育てる。</p>	<p>①職員のアクティブラーニング（以下 AL）への理解を深め、本校の現状と課題をふまえた授業改善の推進と共通理解を形成する。</p> <p>②企画・運営を行う生徒と職員とのコミュニケーションを良好にして、効率的な行事運営を行う。</p>	<p>①AL に基づく授業展開がなせ求められているか、その背景を含めて職員の共通理解を図り、AL に関わる校内研修会を実施する。</p> <p>②企画・運営を行う生徒と職員との「報・連・相」を徹底させ、組織的かつ効率的に行事運営を行う。</p>	<p>①AL に関わる校内研修会を実施し職員の共通理解が深まったか。</p> <p>②生徒と教員がコミュニケーションを良好にし、効率的な行事運営を行い、生徒の充実感が高まったか。</p>	<p>①9月27日に校内研修会を実施し大学入試新テストの概要と趣旨について学び、AL に基づく授業展開がなせ求められているのかについて、職員の共通理解を深めた。そして、11月18日に公開研究授業を実施し、主体的な思考力の育成を図る具体的な手立てについての研究を進めた。さらに、12月17日実施の横浜南西地域学習成果発表会・研究成果発表会で本校の授業力向上に関わる取組を発信した。</p> <p>②長期休暇で連絡が取りにくい時には活動報告シートを作成する等、生徒と教員とのコミュニケーションを密にし、効率的に行事運営ができた。</p>	<p>①本校での授業実践により、生徒の思考力がどのように向上しているかを測る指標づくりについての研究を進める。</p> <p>②生徒の見通しが立っておらず、運営が滞ってしまうことがあったため、先を見据えてコミュニケーションをとるようにする。</p>	<p>・学力向上、授業力向上の取組がアンケート結果に表れている。教職員の目標理解が授業改善、「思考・判断・表現」の育成等の成果に繋がっている。</p> <p>・学校目標に対する取組の継続のためには職員の異動に対しての方策が必要である。</p>	<p>・学力向上に引き続く授業力向上の取組において、研修会、研究授業等を通じて目標を共有し、日常の授業において取組を推進することができた。</p> <p>・生徒が主体的に学校行事等を企画・運営することなどを通じた人間力の育成に関しては、一層の研究・取組が必要である。</p>	<p>・生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、効果的な研修会や研究授業を実施し、授業力向上を目指した具体的な研究活動が学校全体の取組となるような方策を立てる。</p> <p>・生徒が主体的に学校行事等を企画・運営することを支援する方策について、学校全体で共有できる体制づくりを行う。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①交通事故や学びの環境等に対して自ら意識し改善する態度を養う。</p> <p>②生徒の健やかな心身の育成及び社会生活を営むうえでの道徳観の深化を支える相談・支援体制の充実を図る。</p>	<p>①交通安全教育の充実を図り、自分自身で身を守る意識を高める。また、美化委員会を中心に、校舎内・外の美化に努める態度を養う。</p> <p>②より充実した相談体制・支援体制を構築する。</p>	<p>①横浜中地区交通安全高校生大会の地区幹事校として、交通安全に関する生徒の取組の活動を支援し、本校の全校生徒への周知及び啓蒙を図る。美化委員会を中心に、清掃用具の整備、ゴミの分別の徹底等、校舎内・外の美化活動呼びかける。</p> <p>②ソーシャルスキルエデュケーション（以下 SSE）のグランドデザイン化をし、今後の年間計画を立案する。</p>	<p>①自らの不注意による交通事故件数が昨年度より減少したか。ごみの分別の徹底等校舎内・外の美化に努め、学びの環境を整えることができたか。</p> <p>②SSE のグランドデザイン化をし、今後の年間計画の立案ができたか。</p>	<p>①マナーアップ週間、生徒会による交通マナーの寸劇等で交通安全について一定の啓蒙が図れた。交通事故も昨年度よりかなり減少した。年度始めに、清掃用具の点検・整備を実施した。文化祭においては、ごみの分別指導を徹底することができた。</p> <p>②SSE のグランドデザイン化を完成した。</p>	<p>①自動車との接触による事故は減少したが、自転車での転倒による負傷等は相変わらず発生しているため、具体的な事例を検証しながらマナーアップ週間の指導等を通し、交通安全教育のより一層の充実を図る。</p> <p>日頃の校舎内・外の美化に関する生徒の意識が低いので、日々の清掃活動等を通じて高めていく。</p> <p>②完成した SSE のグランドデザインを全職員に周知し、共通理解を図った上で、具体的な年間計画を立案する。</p>	<p>・自転車の転倒事故を防ぐために、さらなる指導が必要である。</p> <p>・登下校時のマナーは浸透している。挨拶等さわやかと思う場面がたくさんある。</p>	<p>・マナーアップ週間、交通安全指導等を通じて交通事故の減少に繋がった。</p> <p>・事故ゼロを目指し、事故原因に基づき、一層の交通安全の充実を図る必要がある。</p> <p>・SSE がグランドデザイン化された。グランドデザインの共通理解を図るとともに、具体的な計画の作成と実践が必要である。</p>	<p>・自己理解を進める教育を通じて「いのちを大切に作る心」「他者を尊重する心」の育成を図る。</p> <p>・交通安全教育の徹底を図るとともに、マナー教育を推進し、生活面での「松陽スタンダード」の定着を図る。</p> <p>・SSE の共通理解を図り、年間計画を策定する。</p>

3	進路指導・支援	「行ける学校」「入れる学校」から「行きたい学校」「入りたい学校」を目指す体系的なキャリア教育を一層充実させるとともに、より高い目標実現を目指す気概を育てる。	生徒が目標とする学校の情報をできる限り収集し、生徒に適切に伝える。	大学側が実施する教員向け説明会等に積極的に参加し、情報収集を行う。予備校とも適切に連携をとりながら、最新の情報に留意し、HR や三者面談を通じて効果的に生徒に伝える。	大学側が実施する教員対象の説明会に積極的に参加することができたか。予備校と連携をとりながら、最新の情報収集につとめ、伝えた内容が生徒の自己実現に生かされたか。	①大学側が実施する説明会はもちろん、予備校や進路業者が主催する報告会などにも、数回参加し、グループ内で情報を共有することができている。 ②センター試験全 16 科目のうち、昨年度は 10 科目、今年度は 9 科目で平均点を超えた。受験者は昨年が 134 名。今年度は 136 名。	①説明会、報告会で得た情報を、どのような形で生徒に伝えていくか。また、どの時期何を伝えていくのか。次年度に向けて準備を進めている。 ②3 学年在籍の約 60% の生徒がセンター試験を受験している。今後も全国平均を上回る点数を取れるような科目数を増やしつつ、どのくらい高い得点をとれるようにするかが、課題となる。	・進路アンケートでは推薦入試等で進路決定をした生徒の受験勉強を始める時期が早まっている。進路未定の生徒への進路選択に対する対応が必要である。	・大学・予備校・進業者等から得られた情報のグループ、学年での共有と生徒への適切な伝達できた。	・「入れる学校」から「入りたい学校」を目指す進路指導を一層進める。 ・キャリア教育のさらなる充実を図り、生徒が未来を切り拓く力の育成を図る。
4	地域等との協働	地域貢献活動やボランティア活動を通じ、地域との協働を進めるなかで、地域の子どものリーダーになれる資質を育てる。	福祉委員会、生徒会執行部が中心となってボランティア情報の周知と参加受け入れを行わせることで、ボランティア活動の中心としての自覚を持たせる。	地域貢献活動やボランティア活動を福祉委員会、生徒会執行部を中心に実施させる。また、クラスへの呼びかけを行い、一般生徒も巻き込んだ活動にする。	福祉委員会、生徒会執行部が地域貢献活動やボランティア活動の中心としての自覚を持ち、参加する生徒は増えたか。	①福祉委員会 (36 名)、生徒会執行部 (7 名)、部活動 (全校生徒の約 9 割) で手話を用いたあいさつ運動、地域の軽スポーツ大会への参加を実施した。 ②福祉委員が地区センター主催の自由研究イベントに参加した (2 名)。 ③福祉委員の呼びかけにより、一般生徒が夏休みに近隣小学校へ出向き、算数の学習支援を行った (7 名)。 ④部活動では吹奏楽部 (29 名)、ダンス部 (24 名) が地域イベントで演奏・パフォーマンスを行った。 ⑤サッカー部、バスケットボール部 (6 名) が近隣小学校の球技大会の練習をサポートし、この活動がかながわ部活ドリーム大賞に表彰された。 以上のように、多くの生徒が参加し、地域交流を行った。	①引き続き、福祉委員、生徒会執行部を中心にして一般生徒へ情報を周知し、より多くの生徒を巻き込んでいく。 ②福祉委員会・生徒会執行部によるボランティア情報の周知及び参加受付をより積極的に行わせていく。	・地域のイベントへの参加、近隣小学校へのスポーツサポート、学習サポートなどがとても評価できる。さらに、学力向上における基礎・基本をつくることで連携できるとよい。	・福祉委員会や部活動の多くの生徒が地域イベントや小学校のサポートなどに積極的に参加した。 さらに一般生徒にも広げた活動とする。	・今後も地域の学校との連携を深める取組の工夫を行う。 ・本校の教育活動に対する理解と地域連携を深めるようホームページや掲示板を活用した積極的な情報発信を行う。
5	学校管理 学校運営	①安全管理や教育環境整備を計画的に行い、地域から信頼される学校づくりをさらに進める。 ②安全・防災に対する意識を養い、危険を予測し不測の事態に臨機応変に対応できる資質を高める。	①学校施設面での安全確保を目指し、安全に係る情報に関して地域・保護者との連携を図る。 ②家庭とも連携して防災対策を推進する。	①老朽化施設を順次更新する。危険箇所の把握を積極的に行い事故の未然防止を図る。不審者情報の共有体制を整備する。安全面での生徒の自己管理意識を高める。 ②東北・九州など震災の事例を教訓に防災教育を進め家庭での具体的な話し合いにつなげる。	①優先順位に沿って適切に更新できたか。不審者等の不測の事態に速やかに適切な対応ができたか。 ②防災・減災教育を家庭での話し合いや具体的な準備行動につなげることができたか。	①昇降口頭上の掲示板入れや食堂前の生徒用テーブルなど経年劣化した木製用具を撤去し、職員 P T A の協力により新規に制作、更新を行った。 ②8 月の防災教育においてシェイクアウト及び災害図上訓練を行った。学校周辺の地図で身近な問題として防災について考えた。	①不審者対策においても防災と同様にマニュアル等で、対応法について職員の共通理解を図り、手順を確認する。 ②家庭での話し合いにつながるよう防災意識をさらに高めるための資料を提供していく。また、さまざまな場面での被災を想定した安全確保力や防災対応力をつける。	・災害図上訓練やシェイクアウトなどの取組は評価できる。さらに防災について家庭での話し合いにつながるような具体的な方策があるとよい。	・武道場床の修理、昇降口頭上掲示板の更新等危険箇所、老朽箇所の整備・更新を順次行い、事故の未然防止を図った。 ・防災訓練において初めて災害図上訓練が実施され、身近な問題として具体性をもって災害について考えることができた。	・事故防止を図る取組を推進し、期待に応え、信頼ある学校づくりを行う。 ・施設面の安全管理に努め、事故の未然防止に努める。 ・防災教育を通じて防災意識を高め、災害対応力の向上と家庭での話し合いに繋がる取組を実施する。 ・急激な世代交代を踏まえ、円滑な組織運営のためのシステムの構築、次世代を担う人材の育成を図る。